

2020年3月期 第3四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）
2. 業績のポイント
3. 業績の状況
4. 主要製品の状況
5. 開発品一覧
6. セグメント情報
7. 業績と予想（連結）

2020年2月5日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2020年3月期 第3四半期 決算概観（連結）

(単位：百万円)

	17年3月期 第3四半期	18年3月期 第3四半期	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	増減率 (%)	20年3月期 (予想)	増減率 (%)
売上高	86,836	82,923	82,017	78,614	-4.1	109,400	-3.7
営業利益	7,313	7,805	6,794	5,271	-22.4	6,500	-27.6
経常利益	7,716	8,246	7,124	5,836	-18.1	7,100	-24.8
親会社株主に帰属する四半 期(当期)純利益	4,723	6,119	5,112	4,374	-14.4	5,400	-21.4

20年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

【売上高】 新医薬品（国内）は主力製品「フルティフォーム」及び12月に投薬期間の制限解除となった「ベオーバ」が順調に伸長したものの、デザレックスの一時供給停止や薬価改定の影響等により、前年を下回る実績となりました。一方、後発医薬品はモメタゾン（AG）の売上げが寄与、新医薬品（海外）も前年を上回る実績となりましたが、全体の売上高は前年同期比34億02百万円減（前年同期比4.1%減）の786億14百万円となりました。

【利益】 売上げの減少、薬価改定の影響等により売上総利益が前年同期に対して17億37百万円減少しました。他方、販売費及び一般管理費は、前年同期に対して2億15百万円減少（内、研究開発費1億50百万円減）し、営業利益は52億71百万円と前年同期比15億22百万円の減益（前年同期比22.4%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、43億74百万円（前年同期比14.4%減）となりました。

20年3月期 連結業績（予想）

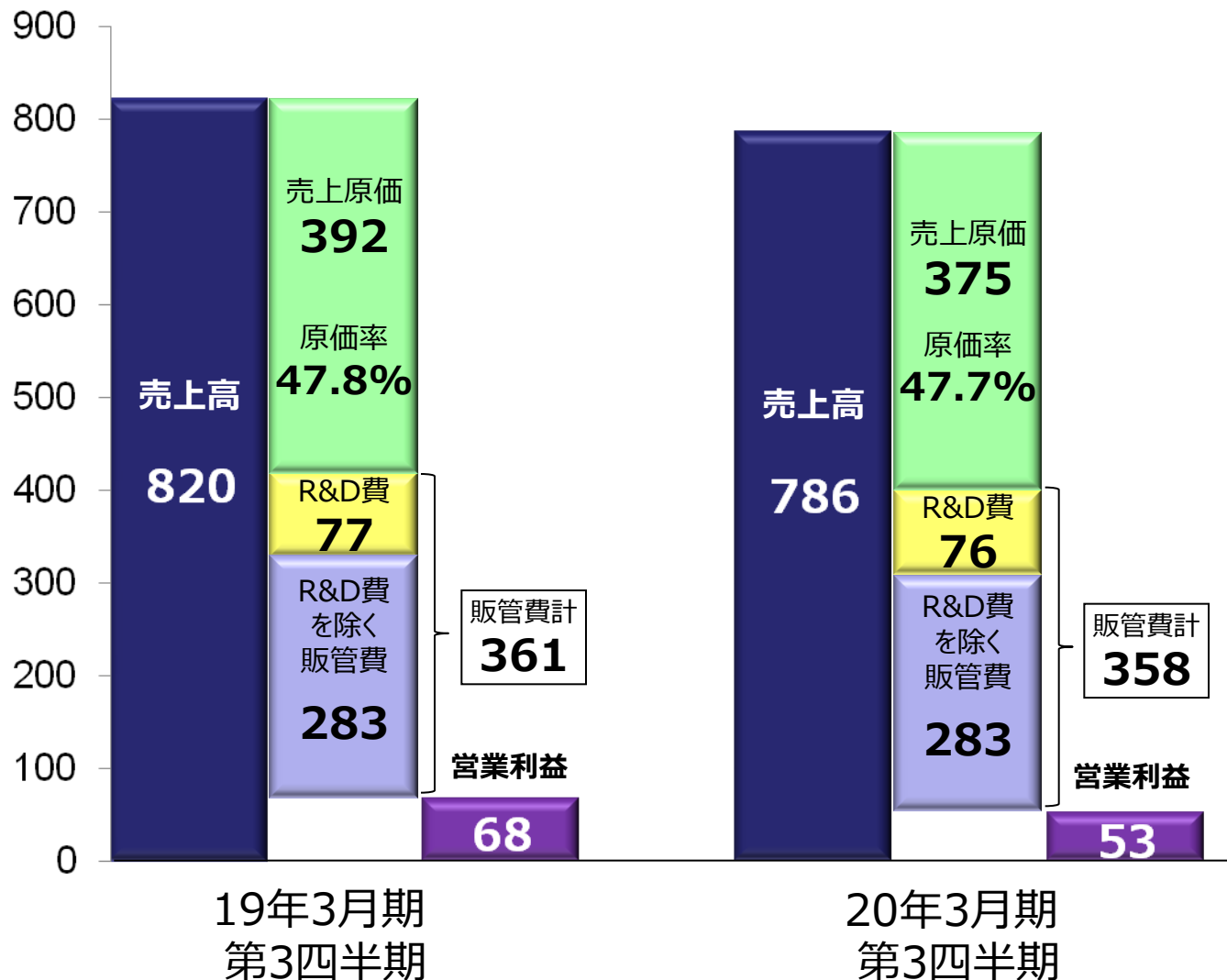
現時点におきまして、2019年11月7日に公表しました（通期）連結業績予想を変更しておりません。

（通期の業績予想に対する進捗度 売上高：71.9% 営業利益：81.1%）

2019年5月13日に公表しました配当予想（年間75円/株）の変更はございません。

2020年3月期 第3四半期 業績のポイント

(単位：億円)



【ポイント】

▶売上高は前年同期比34億円減少

- ・国内新医薬品の売上減少
 (デザレックスの供給一時停止の影響等)

▶売上原価率は0.1%低下

- ・薬価改定等による上昇
- ・プロダクトミクスによる低下

■売上総利益は前年同期比17億円減少

▶販管費は前年同期比3億円減少

- ・R&D費は1億円減
- ・販管費(R&D費を除く)は横ばい

■営業利益は前年同期比15億円減少

2020年3月期 第3四半期 業績の状況

(単位：億円)

(対前年)

	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	前年差額
売上高	820	786	-34
医療用医薬品事業	776	742	-34
◆新医薬品	562	522	-40
○国内	555	510	-45
○海外	6	12	+6
◆後発医薬品	214	220	+6
ヘルスケア事業	44	44	0

営業利益	68	53	-15
経常利益	71	58	-13
親会社株主に帰属する 四半期純利益	51	44	-7

■売上高	786億円	(-34)
◆医療用医薬品事業	742億円	(-34)
●国内新医薬品	510億円	(-45)
19.3 (3Q)	20.3 (3Q)	
・フルティフォーム	98 ⇒ 108	(+10)
・デザレックス	48 ⇒ 8	(-40)
・キプレス	100 ⇒ 86	(-14)
・ナゾネックス	41 ⇒ 38	(-3)
・ウリトス	51 ⇒ 46	(-5)
・ベオーバ	7 ⇒ 22	(+15)
・ペンタサ	105 ⇒ 103	(-2)
・ムコダイン	51 ⇒ 45	(-6)
●海外新医薬品	12億円	(+6)
ガチフロキサシンの売上増加		
●後発医薬品	220億円	(+6)
ナゾネックスAGの売上寄与		
◆ヘルスケア事業	44億円	(0)
■営業利益	53億円	(-15)
◆営業利益率は6.7%と前年同期比1.6ポイント低下		
●原価率：前年同期比0.1ポイント低下 (47.8%⇒47.7%)		
[上昇要因] 薬価改定(3%台)等		
[低下要因] プロダクトミクス(新薬群ベオーバ、フルティフォームの売上増)等		
●研究開発費率：前年同期比0.2ポイント上昇 (9.4%⇒9.6%)		
* 研究開発費は1億円の減少(77億円⇒76億円)		
●販管費率(R&D費を除く)：前年同期比1.4ポイント上昇(34.5%⇒35.9%)		
* 販管費(除R&D)は横ばい(283億円⇒283億円)		
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	44億円	(-7)

2020年3月期 第3四半期 主要製品の状況

(単位：億円)		19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	前年 差額	増減率 (%)	19年3月期 (実績)	20年3月期 (予想)
国内新医薬品	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	61	67	98	108	+10	+10.0	131	141
	デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	28	0	48	8	-40	-83.2	37	50
	キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	29	24	44	38	-6	-14.7	62	47
	キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	33	30	55	48	-7	-13.0	76	63
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	13	27	41	38	-3	-7.4	128	62
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	35	30	51	46	-5	-9.6	66	59
	ベオーバ (自社販売分) (選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤)	—	6	7	22	+15	+203.0	7	28
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	71	68	105	103	-2	-1.8	135	127
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	31	28	51	45	-6	-11.8	68	61
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	53	54	83	83	0	-0.5	119	115
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	—	4	—	11	+11	—	—	18
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	11	11	17	17	0	-3.6	22	22

開発パイプライン

開発品一覧①（2020年2月5日現在）

PhⅢ～承認

※前回（2020年3月期 第2四半期 11月7日発表）からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
申請 (19年10月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	下気道感染症治療に特化して開発した新規キノロン注射剤 1. 肺に高濃度分布し、呼吸器感染症の起炎菌に強い 抗菌力を示す 2. 好気性菌と嫌気性菌双方に有効、かつ1日1回投与が 可能 3. 誤嚥性肺炎、肺化膿症・肺膿瘍に対しても有効性が 確認された	
申請準備中		KRP-116D	間質性膀胱炎治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する 「ジメチルスルホキシド」	
申請 (19年7月)		KRP-108P	気管支喘息	英国 ベクトリア社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	

・慢性咳嗽治療剤「MK-7264」 MSD社がPhⅢ実施中 販売協業に関する覚書締結（19年5月）

※ KRP-AM1977X（キノロン系経口抗菌剤「ラスビック錠75mg」）：2020年1月8日に発売

開発品一覧② (2020年2月5日現在)

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

※前回 (2020年3月期 第2四半期 11月7日発表) からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (18年6月)		Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子 REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業 [NexTEP]への採択(14年6月) 【米国】桃太郎源(株)が前立腺がんの臨床試験(Ph I / II)実施中 【日本】岡山大学で肝がんの医師主導臨床試験 (Ph I / I b)実施中

※ KRP-N118につきましては、当初設定していた製品プロファイルの実現が難しいとの判断に至り、開発を中止いたしました

導入品の状況

※ 「ATYR1923 (aTyr社開発コード)」についてライセンス契約締結 (20年1月)

- ・aTyr社が米国にてPh I b/2a実施中
- ・本剤は融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される

導出品の状況

開発段階 /海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	米国 プリストル・マイヤーズスクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	プリストル・マイヤーズスクイブ社とライセンス契約 (15年12月)
Ph I	KRP-203	再導出を検討中	移植片対宿主病 (GvHD)		S1P受容体アゴニスト	バルティス社が開発戦略上の視点から開発中止を決定し、開発権を返還。

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位：億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	786	-34	53	-15
医療用医薬品事業計	742	-34	47	-16
◆新医薬品	522	-40		
○国内	510	-45		
○海外	12	+6		
◆後発医薬品	220	+6		
ヘルスケア事業計	44	0	5	+3
調整額	-	-	1	-2

2020年3月期 第3四半期 業績予想（連結）

（単位：百万円）

	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期
売上高	50,360	48,299
医療用医薬品事業	47,581	45,505
◆新医薬品	34,028	31,339
○国内	33,424	30,949
○海外	604	390
◆後発医薬品	13,552	14,166
ヘルスケア事業	2,779	2,793
営業利益	2,852	783
経常利益	3,183	1,076
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,217	834

19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	前年差額	増減率 （%）
82,017	78,614	-3,402	-4.1
77,601	74,223	-3,377	-4.4
56,165	52,185	-3,980	-7.1
55,535	50,960	-4,575	-8.2
629	1,224	+595	+94.5
21,436	22,038	+602	+2.8
4,415	4,390	-25	-0.6
6,794	5,271	-1,522	-22.4
7,124	5,836	-1,287	-18.1
5,112	4,374	-738	-14.4

19年3月期 （実績）	20年3月期 （予想）
113,620	109,400
107,859	103,400
78,525	72,400
77,694	71,000
830	1,400
29,334	31,000
5,761	5,900
8,972	6,500
9,438	7,100
6,869	5,400